

分担金・拠出金の名称		親日派・知日派育成のための交流拡充拠出金(対日理解促進交流プログラム)		平成28年度 予算額	3,326,880千円	総合 評価	B
拠出先の国際機関名		ASEAN事務局, SAARC事務局, 日韓学術文化青少年交流共同事業体, 日中友好会館, 中華経済研究院, 南太平洋大学, モーリーン・アンド・マイク・マンスフィールド財団, カナダ・アジア太平洋財団, 欧州異文化学習連盟, 日露青年交流委員会, ラテンアメリカ社会科学研究所					
国際機関の概要		○各国国際機関等は, アジア大洋州, 北米, 欧州, 中南米の関係国・地域において, 経済・社会・文化的発展等の促進, 及び域内の諸問題に関する協力等を目的とし, 青少年を含む人的交流や教育・文化・学術面等での友好協力・研究等の促進についても積極的に対応。 ○関係国・地域の条約または, 複数の国・地域の団体によって設立。					
評価基準		達成状況					
1. 当該機関等の専門分野における影響力・貢献		○各国国際機関等は, アジア大洋州, 北米, 欧州, 中南米の関係国・地域における活動と実績が高く評価されており, 本事業に係わる人的交流分野に関する専門性も有し, 経験が豊富で調整能力も高いことから, 拠出金による本事業の円滑な執行とフォローアップに大きく貢献している。 ○本事業の対象国・地域が広く, 対象者の人選や日程等の調整にきめ細かく対応する必要があるところ, 各国国際機関等は関係国・地域の社会・経済, 文化・教育等関係先とのパイプと実績を踏まえた影響力を活かして, 本事業の確実且つ効果的な実施に寄与している。 ○いずれの国際機関等も, 人的交流促進の必要性を認識しており, 本事業の成果とフォローアップ(特に, 対象者の中・長期的な日本との係わり等)の重要性についても十分理解している。					
2. 我が国重要外交課題遂行における当該機関等の有用性(意思決定における我が国のプレゼンスを含む)		○各関係国・地域における対日理解の促進, 親日派・知日派の発掘, 対外発信の強化を通じて我が国の外交基盤を拡充することを目的とした本事業は, 当該国・地域において拠出先として信頼し得る国際機関等の体制と経験を活用することで, 円滑且つ効果的に推進することができる。 ○いずれの国際機関等も, 日本政府による本事業の趣旨を十分理解しており, 当省(関係在外公館)との緊密な連携に留意し, 当方が期待する各事業の企画・実施に積極的に協力している。					
3. 当該機関等の組織・財政マネジメント		○いずれの国際機関等も, 関係国・地域における人的交流事業に係る企画・実施体制等が整っており, また, 拠出金の要請・管理・支出・監査等の財政面のマネジメントについても適正に対応している。 ○いずれの国際機関等についても, 会計監査の実施を遵守し, 日本政府に適切に報告を行う体制を確保している。					
4. 当該機関等における邦人職員の状況		○本邦に事務所を有する国際機関等(日韓学術文化青少年交流共同事業体, 日中友好会館, 日露青年交流委員会, モーリーン・アンド・マイク・マンスフィールド財団)については, 邦人職員は合計で76%(幹部職員は64%)を占めている。 ○関係域内の人材を優先し, 外国籍の職員を募集していない国際機関(ASEAN事務局, ラテンアメリカ社会科学研究所)については, 邦人職員は確保し得ない状況にあるが, 関係在外公館との緊密な連絡体制を維持。 ○上記以外の国際機関等については, 最新の状況について調査中。					
5. 我が国拠出の執行管理, PDCAサイクルの確保		○いずれの国際機関等についても, 以下①～④のとおりPDCAサイクルを確保している。 ①PLAN: 本事業の趣旨を踏まえ, 拠出要請書の送付・拠出金の受領, 事業計画の策定, 日本政府・関係機関との調整。 ②DO: 事業実施団体の選定・契約, 予算の適正な執行, 事業実施状況の確認, 日本政府・関係機関との調整。 ③CHECK: 事業実施内容・実績の確認(事業報告書の作成), 会計監査報告の提出。 ④ACTION: 事業内容の改善点の検討・提言, 日本政府との協議等(不定期)。					
担当課・室名		外務報道官・広報・文化組織 対日理解促進交流室					